

2022年度 大学院授業評価アンケート

履修者	37
回答者	26
回答率	70.3%

生活科学研究科

◆授業評価アンケート

	とてもそう思う	そう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	全くそう思わない
1. 履修計画の立案に際し、シラバスは有効であった。	65.4%	30.8%	3.8%	0.0%	0.0%
2. 授業は、シラバス通りに行われた。	46.2%	42.3%	11.5%	0.0%	0.0%
3. 授業の内容を、理解することができた。	65.4%	34.6%	0.0%	0.0%	0.0%
4. 授業の内容に、興味・関心を持つことができた。	84.6%	15.4%	0.0%	0.0%	0.0%
5. 授業では、新しい知識や技術が習得できた。	80.8%	19.2%	0.0%	0.0%	0.0%
6. 授業は、研究の遂行に役立つ内容であった。	69.2%	30.8%	0.0%	0.0%	0.0%
7. 教員と学生とのコミュニケーションは円滑であった。	73.1%	26.9%	0.0%	0.0%	0.0%
8. 授業・指導は、満足できる内容であった。	88.5%	11.5%	0.0%	0.0%	0.0%
9. 授業には、意欲的・積極的に参加した。	76.9%	11.5%	7.7%	3.8%	0.0%
10. 院生研究室、研究設備等の環境は、十分に整備されていた。	42.3%	53.8%	3.8%	0.0%	0.0%

◆意見や要望（研究設備・研究環境・研究支援等を含む）

・院生室の空調環境の改善を望みます。  
 ・使ったことのないソフト、機材を自分で使えるようになったり、コンペ大会に作品を応募することにチャレンジ出来たり、今まで経験したことのない体験をすることができ、とても嬉しかったです。自分の扱えるものや知識が増え、気持ちが豊かになりました。ありがとうございました。  
 ・いつも和やかなムードで出迎えてくださり、励ましてくださり、ありがとうございました。先生の授業はいつも居心地が良く、安心できる空間で、幸せでした。修士論文のアドバイスもしてくださり、大変嬉しかったです。  
 ・いつもご指導いただき、ありがとうございます。今後はより一層修士論文に向き合って、突っ走っていきたいと思います。

◆授業改善に関する報告

はじめに、2021年度と比較して授業アンケートへの回答率が飛躍的に上昇したことが、大学院の講義に対しての学生の取り組みや関心として大きく現れていると思われま  
 す。「4. 授業の内容に、興味・関心を持つことができた。」「5. 授業では、新しい知識や技術が習得できた。」「6. 授業は、研究の遂行に役立つ内容であった。」「  
 「7. 教員と学生とのコミュニケーションは円滑であった。」の項目において「とてもそう思う」と「そう思う」が合わせて100%となっており、大学院の講義全般におい  
 て満足度が高い結果となりとても素晴らしいことであると思われま。特に4～6の項目は研究を遂行するに当たりとても大切で役立つ知識や技術を学生に提供できたことは  
 教員側としても嬉しい限りです。「1. 履修計画の立案に際し、シラバスは有効であった。」の回答で「どちらともいえない」という回答が3.8%でありました。これは大学  
 院の講義が、知識や技術を併与する学部多くの講義値は異なり、教員とテーマや結果に関して議論を交わすことで、シラバスという枠を超えてさらに踏み込んだ講義とな  
 り、そこから科学的なものの考え方などを学ぶことも多いためであると考えられます。そのため、「2. 授業は、シラバス通りに行われた。」の「どちらともいえない」の  
 11.5%の回答にも大学院での講義のありがたが現れていると思います。「9. 授業には、意欲的・積極的に参加した。」の項目では「どちらともいえない」と「あまりそう  
 おもわれない」という回答が11.5%見受けられますが、社会人大大学院生や実験・調査で講義に対して対面の集中して取り組みなかつた謙遜を含む回答であったのかも知れませ  
 ん。今後、大学院では、仕事の後、まとまった実験や調査の合間で受講できる形でオンデマンド配信や集中講義形式に授業を切り替えていくことが必要なのかも知れま  
 せん。  
 院生室の空調に不具合があったようです。研究環境はとても大切ですので、速やかに関係する教員を通して空調設備の修繕や研究環境を改善するように申し出てくだ  
 さい。大学として、できる限りの対応を考えていききたいと思います。  
 大学院では普段は使用したことのない高額測定機器や解析ソフトなどに積極的に触れて使っていただくことで、新しい発見や研究の発展に繋がると思います。また、「コ  
 ンペ大会」「国内外の学会発表」を通して、さらに視野を広げて、研究者間での交流も積極的に行うことで、知識や技術ばかりでなく、コミュニケーション能力の向上や研  
 究の更なる発展にも繋がると思っています。学生から「自分の扱えるものや知識が増え、気持ちが豊かになりました。」と言ってもらえると教員も同じように心が豊かに  
 なります。  
 学生さんからの「先生の授業はいつも居心地が良く、安心できる空間で、幸せでした。修士論文のアドバイスもしてくださり、大変嬉しかったです。」とのコメントをい  
 ただきありがとうございます。教員にとって何よりの励みになると思います。大学院で、研究をする立場では、教員も学生も同等です。教員は学生との講義や研究を通  
 じて新たな発見や気づきもあり、私たち教員は学生さんとわくわくしながら研究に取り組むことがとても大切であると思っています。  
 修士論文、博士論文、学会発表そして学会誌への論文投稿への道のりはとても険しい道のりですが、楽しみながら、壁を越えて、次の頂を目指して頑張っていくことの素  
 晴らしさを実感して、それぞれの目標に向かい夢を実現して欲しいと思います。